

## 平成 18 年度 ExTEND2005 基盤的研究 フィージビリティースタディーの採択について

### 1. ExTEND2005 基盤的研究について

環境省では、平成 17 年度 3 月に公表した「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について ExTEND2005」に基づき、取組を進めています。

その柱の一つとして基盤的研究を推進しています。

平成 18 年度は、基盤的研究企画評価検討会及び野生生物の生物学的知見検討会として下記の研究課題を採択し、現在、研究が実施されています。

- 遺伝子導入メダカを用いた内分泌かく乱物質の影響評価と作用機構の解明
- 哺乳類を用いた毒性実験の結果に影響を及ぼす実験動物の遺伝的要因解明と新たな内分泌かく乱メカニズムの検証
- 胎児期におけるエストロゲンシグナルの gain of function と性分化の可塑性
- 胎仔期、新生仔期の代謝機能と内分泌かく乱作用発現
- 核内ホルモン受容体による転写調節における環境化学物質の作用機構
- メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究
- 燃焼排ガスに含まれる多環芳香族炭化水素類の内分泌かく乱作用の評価
- 野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析
- 沿岸域を中心とした湖沼生態系攪乱の実態と、そのメカニズムの解明
- 雌雄同体性魚類の性の可塑性と社会構造に関する研究

### 2. フィージビリティースタディーの実施

来年度以降の新規研究課題候補として、フィージビリティースタディーを公募します。フィージビリティースタディーでは、今年度中に後半の半年間で、来年度以降概ね 3 年間の研究の実行可能性を検証していただきます。

- (1) 研究内容； 「ExTEND2005 における基盤的研究について」  
に合致するもの
- (2) 研究費の規模； 1 課題当たり 300 万～500 万円程度
- (3) 採択予定課題数； 5 課題程度
- (4) 研究期間； 基盤的研究企画評価検討会及び野生生物の生物学的知見検討会による研究計画書承認後～平成 19 年 3 月 31 日
- (5) 研究成果； 今年度の研究成果については基盤的研究企画評価検討会及び野生生物の生物学的知見検討会合同成果発表会（平成 19 年 3 月開催予定）にて報告していただきます。

### 3. 応募要件

- (1) 提出物 [1] 平成 18 年度 ExTEND2005 基盤的研究フイージビリティースタディー研究応募票 (別紙)  
[2] 研究概要を説明するパワーポイント (スライド 6 ~ 8 枚程度、発表時間として 5 分程度) 資料
- (2) 応募受付期間 平成 18 年 7 月 28 日 (金) ~ 8 月 14 日 (月)
- (3) 提出先 [ExTEND2005@janus.co.jp](mailto:ExTEND2005@janus.co.jp)

### 4. 研究課題の採択

応募要件を満たした研究課題について、基盤的研究企画評価検討会・野生生物の生物学的知見検討会の合同検討会 (8 月 18 日 16 時 ~ 18 時 東京にて。非公開) において審査を行います。その際、応募者には、合同検討会委員のヒアリングを受けていただく場合があります。ヒアリングについては、平成 18 年 8 月 15 日にメールにて連絡します。なお、応募者が参加出来ない場合には、代理人の参加も可とします。

### 5. 研究課題採択後の流れ

検討委員による審査の後、採択された研究課題については、改めて、合同検討会からの意見を踏まえた詳細な研究計画書を提出していただき、基盤的研究企画評価検討会及び野生生物の生物学的知見検討会での承認の、研究を開始していただきます。

### 6. その他

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について -ExTEND2005-」に関するより詳しい情報については、環境省ホームページをご参照ください。

<http://www.env.go.jp/chemi/end/extend2005/index.html>

## 7. 検討結果

(1)平成 18 年度 ExTEND2005 基盤的研究フィージビリティースタディーについて、8 月 18 日に応募した 24 件の申請者(代理を含む)による研究計画概要の説明後、検討委員との質疑応答が行われた。

(2)24 件の応募課題より審査の結果、以下の 6 研究課題が採択候補となった。審査の基準は、研究内容及び ExTEND2005 基盤的研究事業での実施の可否とした。

採択候補となった研究課題について詳細な研究計画書案の提出(9 月 20 日期限)を求め、検討委員及び環境省において持ち回りで計画書案の内容確認を行い、10 月 2 日より研究開始の予定とした。

1. 「野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発」  
代表研究者：愛媛大学 岩田 久人
2. 「アラキドン酸代謝変動への影響からみた環境化学物質の内分泌かく乱作用機構の解析」  
代表研究者：昭和大学 原 俊太郎
3. 「日本沿岸における生態系攪乱の実態解明とその要因解析」  
代表研究者：国立環境研究所 堀口 敏宏
4. 「農薬がシャジクモ類減少の一因である可能性に関するフィージビリティースタディー」  
代表研究者：産業技術総合研究所 山室 真澄
5. 「アカトンボ減少傾向の把握とその原因究明に向けて」  
代表研究者：石川県立大学 上田 哲行
6. 「無脊椎動物幼若ホルモン受容体の探索と作用機構の解明」  
代表研究者：国立環境研究所 鑪迫 典久

## 8. 今後の対応

採択課題の本年度成果については、「合同成果発表会」を本年度末に公開で開催し、評価を行う。

別紙

平成 18 年度 ExTEND2005 基盤的研究フイージビリティースタディー研究応募票

申し込み日 平成 18 年 月 日

フリガナ  
代表研究者 氏 名 \_\_\_\_\_

1. 研究課題名 : \_\_\_\_\_

2. 当該年度の計画経費 (概算) : 金 \_\_\_\_\_ 万円也

3. 代表研究者

代表研究者	所属機関 (部局)		所属機関 所在地	
	連絡先 TEL・FAX E-mail		所属機関に おける職名	

4. 研究の概要

5. 研究の目的、必要性及び期待される成果

6. 代表研究者がこの研究に関連して現在までに行った研究状況

7. 平成 18 年 8 月 18 日ヒアリング (平成 18 年 8 月 18 日 16 時 ~ 18 時 東京千代田区にて開催予定) への

参加の可否

\* 以下のいずれか 1 つに ○ を記入してください。

なお、参加できない場合は、本票とメールにて提出されたパワーポイント資料にて審査します。

応募者本人が参加可能である。 ( )

代理人が参加可能である。 ( )

参加できない。 ( )

\* ヒアリングについての詳細は、8 月 15 日にメールにて連絡します。